

2023年度		教科書		学年	教科書		上	教科書ページ	8	～	15	配当時数	5	配当月	4	～	4
算数		東書		5	東書		上	教科書ページ	8	～	15	配当時数	5	配当月	4	～	4

大単元(題材名)	1. 整数と小数		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

知・技	○ 整数、小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることがわかる。
	○ 整数や小数を10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にしたとき的小数点の移動のしかたがわかる。
	○ 小数も0～9までの10個の数字と小数点を使って表せることがわかる。
思・判・表	○ 整数も小数も同じ十進数として、統合的に捉えることができる。
	○ 0～9の10個の数字と小数点を使って、いろいろな大きさの小数を考え、表すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数点の移動によって、いろいろな大きさの数ができることを理解し、整数や小数でいろいろな大きさの数をつくろうとする。

【評価規準】

知・技	○ 整数や小数を10倍, 100倍, 1000倍, $1/10$, $1/100$, $1/1000$ にしたとき的小数点の移動のしかたを理解している。	A(2)ア(ア)
	○ 整数, 小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることを理解している。	A(2)ア(ア)
	○ 小数も0から9までの10個の数字と小数点を使って表せることを理解している。	A(2)ア(ア)
思・判・表	○ 小数を10倍, 100倍, 1000倍, $1/10$, $1/100$, $1/1000$ することを小数点の移動と捉え, 計算の結果を考えることができる。	A(2)イ(ア)
	○ 0~9の10個の数字と小数点を使って, いろいろな大きさの小数を考え, 表している。	A(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数点の移動によって, いろいろな大きさの数をつくっている。	
	○ 0~9までの10個の数字と小数点を使って, いろいろな大きさの数を進んでつくっている。	

学年		内容
4	年	大きい数のしくみ
4	年	小数のしくみ

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
整数と小数①	1	○ 整数、小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることを理解する。	(1)イ
		・ 数の構成を式に表す。 $2.135 = 1 \times 2 + 0.1 \times 1 + 0.01 \times 3 + 0.001 \times 5$	
		・ 大きな整数や小数も、0から9までの10個の数字と小数点を使って表せることがわかる。	
整数と小数②	1	○ 小数の各位の数字の意味について考え、数の相対的な大きさについて理解する。	(1)イ
整数と小数③	1	○ 10倍、100倍、1000倍した数を求め、小数点の移動のしかたを調べる。	(1)イ
整数と小数④	1	○ $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$ にした数を求め、小数点の移動のしかたを調べる。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、整数と小数の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、整数と小数のしくみに注目して共通していることをまとめる。	

2023年度									
教科	学年	教科書	上	教科書ページ		配当時数		配当月	
算数	5	東書	上	16	～	31	8	4	～
								5	

大単元(題材名)	2. 直方体や立方体の体積		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 体積の用語とその意味、単位 cm を知り、それを用いて体積を表すことができる。
	○ 直方体や立方体の求積公式を理解し、体積を求めることができる。
	○ 大きな体積の単位 m を知り、適切に単位を選んで体積を求めることができる。
	○ 体積の単位に関連して、 $1\text{ L} = 1000\text{ cm}$ 、 $1\text{ mL} = 1\text{ cm}$ 、 $1\text{ m} = 1000\text{ L}$ の関係がわかる。
	○ 内のり、容積の用語とその意味を知り、容積を求めることができる。
思・判・表	○ 直方体や立方体の体積を求める公式をつくることができる。
	○ 複合図形の体積の求め方について、直方体や立方体に分割するなどして、工夫して考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 体積の意味や単位を知り、図形の体積の求め方や身の回りにあるものの体積を考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 体積の用語とその意味、単位 cm を理解している。	B(4)ア(ア)(イ)
	○ 直方体や立方体の体積を求積公式を適用して求めている。	B(4)ア(ア)(イ)
	○ 大きな体積の単位 m を知り、適切に単位を選んで体積を求めている。	B(4)ア(ア)(イ)
	○ $1\text{ L} = 1000\text{ cm}$ の関係を理解し、 $1\text{ mL} = 1\text{ cm}$ 、 $1\text{ m} = 1000\text{ L}$ の関係を理解している。	B(4)ア(ア)(イ)
	○ 内のり、容積の用語とその意味を理解し、容積を求めている。	B(4)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 直方体や立方体の求積公式を、説明している。	B(4)イ(ア)
	○ 複合図形の体積の求め方を、工夫して考え、説明している。	B(4)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 1 cm の何個分とみて、直方体の体積の表し方を進んで考えている。	
	○ 身の回りのいろいろなものの体積を進んで調べている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2 年	水のかさのたんい
4 年	面積のはかり方と表し方
4 年	直方体と立方体

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.もののかさの表し方①	2	○ 直方体や立方体のかさの比べ方を考え、1辺が 1 cm の立方体で数値化する。	(1)イ、ウ
		・ 体積の用語とその意味や表し方を理解する。	
		・ 単位 cm がわかる。	
1.もののかさの表し方②	1	○ 直方体や立方体の求積公式を理解する。	(1)イ
		・ 1 cm の立方体の何個分かを調べることを通して、直方体や立方体の体積を計算で求める方法を考える。	
1.もののかさの表し方③	1	○ 直方体や立方体の体積を、求積公式を使って求める。	
1.もののかさの表し方④	1	○ 複合図形の体積を、直方体に分割したり、欠損部分をひいたりして求める。	(1)イ、ウ
		・ L字型の体積について、3人の求め方を説明する。	
2.いろいろな体積の単位①	1	○ 大きな体積の単位 m を知り、大きな立体の体積を求める。	(1)イ
		・ $1\text{ m} = 1000000\text{ cm}$ の関係を理解する。	
2.いろいろな体積の単位②	1	○ 内のり、容積の用語とその意味を理解し、容積を求める。	(1)ア
		・ $1\text{ L} = 1000\text{ cm}$ 、 $1\text{ mL} = 1\text{ cm}$ 、 $1\text{ m} = 1000\text{ L}$ の関係を理解する。	
		・ 既習の単位と結びつけて、単位間の関係をまとめる。	
		・ 「ますりん通信」で、複雑な体積も水の中に入れることで体積が測れることを知る。	
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、体積の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、図形の特徴に注目して、体積の求め方を面積の求め方と比べながら考える。	

令和5年度 算数科 第5学年 評価規準

江戸川区立第四葛西小学校

2023	年度								
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	5	東書	上	32	～	38	4	5	～

大単元(題材名)	3. 比例		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 比例の用語とその定義がわかる。
	○ 比例する2つの量のもう一方の値を求めることができる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量が比例関係にあるかどうかを、表などに表して判断することができる。
	○ 比例関係を数直線図を使って、問題解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 伴って変わる2つの数量の関係をもとに、数値を変えて変化や対応の特徴を考察しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 比例の用語とその定義を理解している。	C(1)ア(ア)
	○ 比例関係を式に表し、一方の量に対応するもう一方の量を求めている。	C(1)ア(ア)
思・判・表	○ 比例関係にあるかどうかを判断し、比例関係を表や図などに表している。	C(1)イ(ア)
	○ 比例関係を数直線図を使って、式の立て方や答えの求め方を考え、説明している。	C(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 比例する2つの数量の関係に関心をもち、いろいろな見方で調べている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 変わり方調べ

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
比例①	1	○ 伴って変わる2つの数量の関係を表に整理し、比例関係にあることを理解する。	(1)イ
		・ 比例の用語とその定義を知る。	
比例②	1	○ 表から比例関係を判断し、比例の定義を用いて表の○の値を求める。	(1)イ
比例③	1	○ 比例関係を数直線図で表せることを理解し、図を使って問題解決する。	(1)ア, ウ
まとめ	1	○ 「いかしてみよう」で、比例関係を活用して、階段の段数から学校の3階の床までの高さを求める。	(1)ア

大単元(題材名)	4. 小数のかけ算	
中単元(曲名)		
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	
関連する道徳の内容項目		

知・技	○ 乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。 ○ 乗数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。 ○ 小数×小数の乗法のしくみを理解し、積の小数点の位置を定めることができる。 ○ 小数の乗法について、乗数の大きさを、被乗数と積の大小関係を判断することができる。 ○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることがわかる。 ○ 小数の場合でも、乗法の交換法則や分配法則、結合法則が成り立つことがわかる。
	○ 乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。 ○ 小数の乗法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の乗法を考えようとする。

【評価規準】	対応する学習指導要領の項目
--------	---------------

知・技	○ 小数をかける意味を理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 乗数が小数の場合の計算原理や計算方法、筆算のしかたを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 乗数が小数の場合について、筆算で計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 小数×小数の場合について、筆算で計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 乗数の大きさから、積と被乗数の大小関係の判断ができることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式を使って、面積や体積を求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
	○ 小数の場合でも、計算のきまりが成立立つことを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ), A(6)ア(ア)
思・判・表	○ 乗数が小数の乗法の場合に必要根拠を、数直線図を用いて考え、説明している。	A(3)イ(イ), A(6)イ(イ)
	○ 乗数が小数の場合の計算方法を、小数のしくみや計算のきまりなどをもとに考え、説明している。	A(3)イ(イ), A(6)イ(イ)
	○ 小数の乗法を使って、適用問題を解いている。	A(3)イ(イ), A(6)イ(イ)
主体的に学習に取り組む態度	○ 乗数が小数の場合について、整数の乗法と関連付けて計算方法を考え、説明している。	A(3)イ(イ), A(6)イ(イ)
	○ 計算方法について具体例に置き換えて考えたり、図などに表したり考えている。	
	○ 小数が日常生活で多く使われていることに気づき、小数の乗法の計算を進んで練習している。	

学年		内容
4	年	小数のかけ算とわり算
	年	

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
小数のかけ算①	1	○ 帯小数をかける意味や乗数が帯小数のときの立式を理解する。 ・ 数直線図を用いて、整数×小数の計算場面を理解し、立式する。	(1)ア, ウ
小数のかけ算②	1	○ 整数×帯小数の計算のしかたを、数直線図を用いて、乗数が整数の場合に帰着させて説明する。 ・ 計算のしかたを比較し、どの考え方も両置きである整数の計算に直すとで説明できることを理解する。	(1)イ, ウ
小数のかけ算③	1	○ 小数×小数の計算方法を理解する。 ・ 数直線図を用いて、小数×小数の計算場面を理解し、立式する。 ・ 小数×小数の計算のしかたについて、乗法の性質を用いて説明する。	(1)ア
小数のかけ算④	1	○ 計算のしかたと関連付けながら、小数×小数の計算のしかたを理解する。	(1)イ
小数のかけ算⑤	1	○ 積の末位の0の処理や空位に0を補う処理のある筆算のしかたを考える。	(1)イ
小数のかけ算⑥	1	○ 整数×帯小数、整数×純小数の場合について立式し、積の大きさを比較する。 ・ 積は乗数が1より大きとき被乗数より大きくなること、1より小さいとき被乗数より小さくなることを理解する。	(1)ア
小数のかけ算⑦	1	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることを理解する。	(1)イ
小数のかけ算⑧	1	○ 小数の場合にも、乗法の交換、結合、分配法則が成り立つことを理解する。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめようで、小数の乗法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでいこう算数の目で、乗法の性質に注目し、筆算のしかたや計算のきまりを生かした計算の工夫を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	5	東書	上	52	9	6	6

大単元(題材名)	5. 小数のわり算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。
	○ 除数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数の除法について、除数の大きさから、被除数と商の大小関係を判断することができる。
	○ 小数÷小数で、あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めることができる。
	○ 小数÷小数で、商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求めることができる。
思・判・表	○ 除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。
	○ 小数の除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の除法を考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 小数でわる意味を理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 除数が小数の場合の計算原理や計算方法、筆算のしかたを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 除数が小数の場合について、筆算で計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 除数の大きさから、商と被除数の大小関係の判断ができることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ わりきれるまでわり進む筆算のしかたを理解し、計算している。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 除数が小数の除法の式になる根拠を、数直線図を用いて考え、説明している。	A(3)イ(ア)
	○ 除数が小数の場合の計算方法を、小数のしくみや計算のきまりなどをもとに考え、説明している。	A(3)イ(ア)
	○ 小数の除法を使って、適用問題を解いている。	A(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 除数が小数の場合でも、整数の除法と関連付けて計算方法を考え、説明している。	
	○ 計算方法について具体例に置き換えて考えたり、図などに表したりして考えている。	
	○ 小数が日常生活で多く使われていることに気づき、小数の除法の計算を進んで練習している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4 年	小数のかけ算とわり算
5 年	小数のかけ算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
小数のわり算①	1	○ 帯小数でわる意味や除数が帯小数のときの立式を理解する。 ・ 数直線図を用いて、整数÷小数の計算場面を理解し、立式する。	(1)ア, ウ
小数のわり算②	1	○ 整数÷帯小数の計算のしかたを、数直線図を用いて、除数が整数の場合に帰着させて説明する。 ・ 計算のしかたを比較し、どの考え方も既習である整数の計算に直すことで説明できることを理解する。	(1)イ, ウ
小数のわり算③	1	○ 小数÷小数の計算方法を理解する。 ・ 数直線図を用いて、小数÷小数の計算場面を理解し、立式する。 ・ 小数÷小数の計算のしかたについて、除法の性質を用いて説明する。	(1)ア, ウ
小数のわり算④	1	○ 計算のしかたと関連付けながら、小数÷小数の筆算のしかたを理解する。	(1)イ
小数のわり算⑤	1	○ 筆算に習熟し、商の処理のしかたについて考える。 ・ 商の空位に0を補う処理について理解して筆算する。 ・ 整数÷小数のわり進む筆算のしかたを理解して計算する。	(1)イ, ウ
小数のわり算⑥	1	○ 整数÷帯小数、整数÷純小数の場合について立式し、商の大きさを比較する。 ・ 商は除数が1より大きいと被除数より小さくなること、1より小さいと被除数より大きくなることを理解する。	(1)イ
小数のわり算⑦	1	○ あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりの求め方を理解する。 ・ あまりの小数点をうつ位置を理解する。	(1)ア
小数のわり算⑧	1	○ 商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求める。	(1)ア
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、小数の除法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでいこう算数の目」で、除法の性質に注目し、商が等しい除法を選んだり、筆算の違いを説明したりする。	

2023年度

教科
算数

学年
5

教科書
東書

上下
上

教科書ページ
64

配当時数
5

配当月
6

～

69

～

6

大単元(題材名)	小数の倍		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 小数倍を理解し，除法を使って小数倍を求めることができる。
	○ ある数量の小数倍の大きさを求めるときには，小数の乗法が用いられることがわかる。
	○ 小数倍を理解し，除法を使って，もとにする量を求めることができる。
思・判・表	○ 小数倍は，もとにする量を1としたときの比べられる量の大きさを表していることがわかる。
	○ もとにする量，比べられる量，小数倍の関係をもとに，問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り，それを活用したり関連付けたりして小数倍について考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 2つの数量を比較し，小数の除法を用いて，小数倍を求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ もとにする量をもとに小数の乗法を用いて，小数倍にあたる比べられる量を求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ もとにする量×小数倍＝比べられる量の関係を，もとにする量を□として，□を用いた式に表し，比べられる量÷小数倍の計算から，もとにする量を求めている。	A(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 小数倍の意味について，もとにする量を1としたときの比べられる量の大きさを表していることが説明できる。	A(3)イ(ア)
	○ 小数倍を利用した問題を解いている。	A(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数倍を用いる計算場面について具体例に置き換えて考えたり，図などに表したりして考えている。	
	○ 小数倍が日常生活で多く使われていることに気づき，小数の乗法や除法を活かそうしている。	

【関連する既習内容】

学年		内容
4	年	倍の見方
	年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
小数の倍①	1	○ 2つの数量の関係を倍で表すとき，どちらを基準とするかによって，その値が変わることを理解する。	(1)ア
小数の倍②	1	○ もとにする量と比べられる量が小数の場合でも，何倍かを求めるには除法を使うことを理解する。	(1)ア
		・ もとにする量と比べられる量が小数の場面で，2つの数量の関係を小数倍で表す。	
小数の倍③	1	○ 小数倍が用いられる場面で，比べられる量を求めるには乗法を使うことを理解する。	(1)ア
小数の倍④	1	○ 小数倍が用いられる場面で，もとにする量を求めるには除法を使うことを理解する。	(1)ア
		・ もとにする量を□として，□を使って乗法の式に表してから求める。	
小数の倍⑤	1	○ 値段の下がり方を比較する場面で，小数倍を用いて比べられることを理解する。	(1)ア

2023

年度

教科

算数

学年

5

教科書

東書

上

72

～

83

配当時数

8

配当月

7

～

7

大単元(題材名)	6. 合同な図形		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 図形の合同の意味がわかる。
	○ 合同な図形の対応関係を理解し、合同かどうかの判別ができる。
	○ 合同な三角形の3つのかき方がわかる。
	○ 合同な三角形や四角形をかくことができる。
思・判・表	○ 平行四辺形やひし形などの四角形に対角線をひいてできる三角形について、合同かどうか調べることができる。
	○ 合同な三角形の作図のしかたを、作図に必要な要素をもとに説明することができる。
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに、合同な四角形の作図のしかたを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 2つの図形が合同であるかどうかの条件をみつけようとするを通して、図形の性質を考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 図形の合同の意味を理解している。	B(1)ア(ア)
	○ 合同な2つの図形について、対応する辺、対応する角、対応する頂点を理解している。	B(1)ア(ア)
	○ 対応する辺の長さや角の大きさから、合同かどうかを判別している。	B(1)ア(ア)
	○ 合同な三角形のかき方を理解し、合同な三角形をかいている。	B(1)ア(ア)
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに、合同な四角形をかいている。	B(1)ア(ア)
思・判・表	○ 平行四辺形やひし形などの四角形に対角線をひいてできる三角形について、合同かどうかを説明している。	B(1)イ(ア)
	○ 合同な三角形の作図のしかたを、作図に必要な要素をもとに、説明している。	B(1)イ(ア)
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに、合同な四角形の作図のしかたを考え、説明している。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 身の回りにある合同な図形をみつけている。	
	○ 合同な図形の性質について、友だちと話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 垂直、平行と四角形
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
合同な図形①	1	○ 2つの図形を重ね合わせる活動を通して、合同の意味を理解する。	(1)イ
		・ 合同の用語と定義を知る。	
		・ うり返してひったり重ね合わせることができる図形も合同と知る。	
合同な図形②	1	○ 合同な図形の性質を理解する。	(1)イ
		・ 対応する辺、対応する角、対応する頂点の意味を知る。	
合同な図形③	1	○ 平行四辺形やひし形などに対角線をひいてできる三角形について、合同かどうか調べる。	(1)イ
合同な図形④	2	○ 合同な三角形のかき方を考え、能率的なかき方を理解する。	(1)イ, ウ
合同な図形⑤	1	○ 適用問題に取り組み、合同な三角形のかき方に習熟する。	
合同な図形⑥	1	○ 合同な三角形のかき方をもとに、合同な平行四辺形のかき方を考える。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、合同な図形の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、図形の辺や角に注目し、合同条件について考える。	

2023	年度								
教科	学年	教科書	より	教科書ページ	配当時数	配当月			
算数	5	東書	上	84	～ 95	6	9	～ 9	

大単元(題材名)	7. 図形の角		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 三角形，四角形の内角の和が，それぞれ180°，360°であることがわかる。 ○ 五角形，六角形や多角形の用語とその定義がわかる。 ○ 内角の和を用いて，図形の示されていない1つの角の大きさを計算で求めることができる。 ○ 多角形を三角形に分けて，内角の和を求めることができる。
思・判・表	○ 三角形の内角の和から，四角形や多角形の内角の和の求め方を考えることができる。 ○ 同じ形の四角形の敷き詰めを通して，敷き詰められる理由を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 基本的な図形の性質をもとに多角形の内角の和について，筋道立てて考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 三角形の内角の和が180°であることを理解している。 ○ 四角形の内角の和が360°であることを理解している。 ○ 五角形，六角形や多角形の用語と定義を理解している。 ○ 内角の和を用いて，三角形，四角形の示されていない1つの角の大きさを計算で求めることができる。 ○ 多角形を三角形に分けて，内角の和を求めることができる。	B(1)ア(イ) B(1)ア(イ) B(1)ア(イ) B(1)ア(イ) B(1)ア(イ)
思・判・表	○ 四角形の内角の和が360°であることを筋道立てて説明している。 ○ 多角形を三角形に分けて考え，その内角の和の求め方を説明している。 ○ 同じ形の四角形の敷き詰めを通して，敷き詰められる理由を説明している。	B(1)イ(ア) B(1)イ(ア) B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 三角形や四角形などの内角の和をいろいろな方法で調べ，説明している。 ○ 四角形の内角の和の求め方を考え，考えたことを友だちと話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容	
4	年	角の大きさ
	年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1. 三角形と四角形の角①	1	○ 二等辺三角形で，三角形の3つの角の大きさのきまりを調べ，内角の和が180°であることを確認する。	(1)イ
1. 三角形と四角形の角②	1	○ 三角形の内角の和は180°であることを理解する。	(1)イ
		・ いろいろな三角形の3つの角の大きさを測ったり，角を切り取って並べたりして三角形の内角の和が180°であることを調べる。	
		・ 内角の和180°を利用して，三角形の示されていない角の大きさを計算で求める。	
1. 三角形と四角形の角③	1	○ 三角形の内角の和が180°であることをもとに，四角形の内角の和は360°であることを説明する。 ・ 3人の四角形の内角の和の求め方を説明する。	(1)イ，ウ
1. 三角形と四角形の角④	1	○ 多角形を知り，多角形の内角の和を求める方法を考える。 ・ 五角形，六角形や多角形の用語と定義を知る。多角形の内角の和を調べる。	(1)イ
2. しきつめ	1	○ 同じ形の四角形の敷き詰めを通して，論理的思考力を高める。 ・ 敷き詰められる理由を考え，説明する。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，図形の角の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，図形の角の大きさに注目し性質を考えたり，図形の性質を筋道立てて説明したりする。	

2023

年度

教科

学年

教科書

上

教科書ページ

東書

上

96

～

109

配当時数

12

配当月

9

～

9

大単元(題材名)	8. 偶数と奇数，倍数と約数		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】	
知・技	○ 偶数，奇数の用語とその意味がわかり，偶数と奇数に類別することができる。 ○ 倍数，公倍数，最小公倍数の用語とその意味や求め方がわかる。 ○ 約数，公約数，最大公約数の用語とその意味や求め方がわかる。
思・判・表	○ 偶数，奇数を活用して，問題を解決することができる。 ○ 公倍数，最小公倍数の考え方を活用して，問題を解決することができる。 ○ 公約数，最大公約数の考え方を活用して，問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 倍数，公倍数，最小公倍数や約数，公約数，最大公約数が，日常生活でどう利用できるかを考えたり，調べたりする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 偶数，奇数の用語とその意味を理解している。 ○ 倍数，公倍数，最小公倍数の用語とその意味を理解している。 ○ 公倍数の手際よい見つけ方を理解し，公倍数，最小公倍数を求めている。 ○ 約数，公約数，最大公約数の用語とその意味を理解している。 ○ 公約数の手際よい見つけ方を理解し，公約数，最大公約数を求めている。	A(1)ア(ア)(イ) A(1)ア(ア)(イ) A(1)ア(ア)(イ) A(1)ア(ア)(イ) A(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 整数を2でわったときのあまりに着目して分類している。 ○ 公倍数，公約数の手際よい見つけ方を考え，説明している。 ○ 公倍数，最小公倍数の考え方を活用して，問題を解決している。 ○ 公約数，最大公約数の考え方を活用して，問題を解決している。	A(1)イ(ア) A(1)イ(ア) A(1)イ(ア) A(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 倍数，公倍数，最小公倍数に関心を持ち，進んでそれらを調べている。 ○ 約数，公約数，最大公約数に関心を持ち，進んでそれらを調べている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
2年	かけ算(1) / かけ算(2)
3年	わり算
3年	あまりのあるわり算

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.偶数と奇数①	2	○ 整数を2でわったあまりに着目すれば，偶数と奇数に類別できることを理解する。 ・ あたりとはすれの2つに分けられた数の特徴を調べて，整数の分け方を考える。 ・ 偶数，奇数の用語とその意味を知る。	(1)イ
1.偶数と奇数②	1	○ 偶数，奇数を式に表すことで，その定義について理解を深める。	(1)イ
2.倍数と公倍数①	2	○ 倍数，公倍数，最小公倍数の用語と意味を理解し，それらを求める。 ・ 1ぶくろ3本入りの鉛筆と，1ぶくろ4本入りのキャップについて，それぞれを表にまとめて，3の倍数や4の倍数であることを理解する。 ・ 鉛筆とキャップの表から，3の倍数と4の倍数の公倍数をみつける。また，数直線から公倍数，最小公倍数をみつける。	(1)ア
2.倍数と公倍数②	1	○ 公倍数の手際よい見つけ方を理解し，公倍数，最小公倍数を求める。	(1)イ
2.倍数と公倍数③	1	○ 3つの数の公倍数の見つけ方を考える。 ・ 3つの数の公倍数も，最小公倍数の倍数になっていることを理解する。	(1)イ
3.約数と公約数①	2	○ 約数，公約数，最大公約数の用語と意味を理解し，それらを求める。 ・ 縦12cm，横18cmの長方形の中に合同な正方形を敷き詰めるとき，すき間なく敷き詰められる正方形の1辺の長さを求めるために，数直線に12の約数と18の約数を○で囲む。 ・ 数直線から12と18の最大公約数を求める。	(1)ア
3.約数と公約数②	1	○ 公約数の手際よい見つけ方を理解し，公約数，最大公約数を求める。	(1)イ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，倍数の考え方を活用して，問題を解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で，偶数と奇数，倍数と約数の基本的な学習内容を理解しているかを ○ 「つないでいこう算数の目」で，乗法と除法をもとにして，整数の性質を考える。	

2023

年度

教科

算数

学年

5

教科書

東書

教科書ページ

上110

配当時数

6

配当月

10

～

119

～

10

大単元(題材名)	9. 分数と小数、整数の関係		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 整数どうしの除法の商は、分数を用いて表すことができることがわかる。
	○ 分数倍の意味を理解し、分数を用いて何倍かを表すことができることがわかる。
	○ いろいろな分数を小数で表す方法がわかる。また、小数できちんと表せない分数があることがわかる。
	○ 小数や整数はどんな数でも分数で表すことができることがわかる。
思・判・表	○ 整数どうしの除法の商を分数で表すとき、その大きさを筋道立てて考えることができる。
	○ 分数倍を、整数倍や小数倍と同じように考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数と小数、整数の関係から、分数の表す意味について考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 整数どうしの除法の商を分数を用いて表している。	A(4)ア(ア)(イ)
	○ 分数を用いて何倍かを表している。	A(4)ア(ア)(イ)
	○ いろいろな分数を小数で表している。	A(4)ア(ア)(イ)
	○ 小数や整数を分数で表している。	A(4)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 整数どうしの除法の商を分数で表すとき、その大きさを筋道立てて考え、説明している。	A(4)イ(イ)
	○ 分数倍を、整数倍や小数倍と同じように考え、説明している。	A(4)イ(イ)
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数と小数、整数の関係に関心を持ち、進んで小数、整数を分数で表したり、分数を小数で表したりしている。	

【関連する既習内容】

学年		内容
4	年	分数
	年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.わり算と分数①	2	○ 整数どうしの除法の商は、分数で表すことができることを理解する。 ・ 2 L のジュースを3人で等分するときの1人分の量を分数で表す。 ・ 適用問題に取り組み、整数どうしの除法の商を分数で表すことに習熟する。	(1)ア
1.わり算と分数②	1	○ 何倍かを表す数が分数になることがあることを知る。	(1)ア
2.分数と小数、整数の関係①	1	○ 分数を小数で表す方法を理解する。 ・ 「ますりん通信」で、小数で正確に表せない分数があることを知る。	(1)イ
2.分数と小数、整数の関係②	1	○ 小数や整数を分数で表す方法を考える。 ・ 小数は10や100などを分母に、整数は1などを分母にした分数で表せることを知る。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、分数と小数、整数の関係の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでいこう算数の目」で、分数の表し方に注目し、分数の意味を振り返り、まとめる。	

2023年度

教科	学年	教科書	教科書ページ	配当回数	配当月
算数	5	東書	下 2 ~ 18	10	10 ~ 10

大単元(題材名)	10. 分数のたし算とひき算		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 分数は、分子と分母に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことがわかる。 ○ 通分、約分の用語とその意味がわかる。 ○ 大きな新しい分数をつくり、分数の通分、約分をすることができる。 ○ 通分のしかたを知り、異分母分数の大小比較をすることができる。 ○ 異分母分数の加法、減法の計算をすることができる。 ○ 分数と小数が混じった加法、減法の計算をすることができる。 ○ 分数を使って時間を表すことができる。
思・判・表	○ 大きな新しい分数のきまりを活用して、通分する方法を考えることができる。 ○ 異分母分数の加法、減法の計算は、同分母にするれば既習の計算と同じようにできると考えることができる。 ○ 分数と小数が混じった計算では、小数を分数にするれば計算できると考えることができる。 ○ 分数の加法や減法を使って、適用問題を解くことができる。 ○ 分数の意味や表し方から、分数がどう利用されているか調べたり、どう活用できるか考えようとしたりする。
主体的に学習に取り組む態度	

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことを理解している。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 通分の用語とその意味や方法を知り、異分母分数の大小比較をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 通分する際は、それぞれの分母の最小公倍数を分母にすることを理解している。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 約分の用語とその意味や方法を知り、約分をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 異分母分数の加法、減法の計算をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 異分母分数の3口の計算をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 帯分数の加減法で、わり上がりあり、くり下がりありの計算をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 分数と小数が混じった加法、減法の計算をしている。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
思・判・表	○ 分数を使って時間を表している。	A(4)ア(ウ)(エ), A(5)ア(ア)
	○ 大きな数の1/100の大きさや活用して、通分する方法を考え、説明している。	A(4)イ(ア), A(5)イ(ア)
	○ 異分母分数の加法、減法の計算は、同分母にすれば既習の計算と同じようにできると考え、説明している。	A(4)イ(ア), A(5)イ(ア)
	○ 分数と小数が混じった計算では、小数を分数にそろえれば計算できると考え、説明している。	A(4)イ(ア), A(5)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数の加法や減法を使って、適用問題を解いている。	A(4)イ(ア), A(5)イ(ア)
	○ 大きな数の1/100の数には、どんな大きさがあるか進んで調べている。	
	○ 異分母分数の加法、減法の計算のしかたを考え、わかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年		内容
5	年	偶数と奇数，倍数と約数
5	年	分数と小数，整数の関係

【学習活動】

小単元名	時刻	学習活動	数学的活動
1.通分と分数のたし算、ひき算①	1	○ 異分母分数の加法、減法の計算原理や方法を理解し、計算する。 ・ 数直線を使って、等しい分数をみつけ、異分母分数の加法減法は、分母をそろえたと計算できることわかる。	(1)ア, ウ
1.通分と分数のたし算、ひき算②	1	○ 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数で割っても大きさは変わらないことを知る。	(1)イ
1.通分と分数のたし算、ひき算③	1	○ 通分の用語とその意味や方法を知り、異分母分数の減法の計算をする。	(1)ア
1.通分と分数のたし算、ひき算④	1	○ 3つ以上の分数を通分する方法を理解し、異分母分数の大小比較をする。 ・ 通分する際は、それぞれの分母の最小公倍数を分母にすると簡単で分かりやすいことを知る。	(1)イ
2.約分と分数のたし算、ひき算①	1	○ 約分の用語とその意味や方法を知り、約分ができる。	(1)イ, ウ
2.約分と分数のたし算、ひき算②	1	○ 異分母分数の加法、減法の計算について考える。また、3口の計算方法を知る。 ・ 通分してから計算をして、答えが約分できるときには約分することを確認する。	(1)イ, ウ
3.いろいろな分数のたし算、ひき算①	1	○ 帯分数の加法、減法の計算方法を知り、計算する。	(1)イ, ウ
3.いろいろな分数のたし算、ひき算②	1	○ 分数と小数が混じった加法、減法の計算方法を考える。	(1)イ, ウ
4.時間と分数	1	○ 分数を使って時間を表す方法を考える。	(1)ア, ウ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、分数の加法と減法の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでいこう」算数の目で、もとにする数に注目し、分数の計算のしかたを考える。	

2023

年度

教科

算数

学年

5

教科書

東書

上下

下

教科書ページ

20

配当時数

5

配当月

11

～

27

～

11

大単元(題材名)	11. 平均		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	D データの活用		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	☐ 平均の用語とその意味や求め方を理解し、平均を求めることができる。
	☐ 資料の中に0がある場合の平均の求め方や、平均では分離量でも小数で表せることがわかる。
思・判・表	☐ 平均の考えを活用して、いろいろな問題の解き方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	☐ 測定した結果を平均することについて考察し、それを学習や日常生活に生かそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	☐ 平均の用語とその意味や求め方を理解している。	D(2)ア(ア)
	☐ 資料の中に0がある場合の平均の求め方を理解している。	D(2)ア(ア)
	☐ 平均では分離量でも小数で表せることを理解している。	D(2)ア(ア)
	☐ 平均から全体量を求める方法を理解している。	D(2)ア(ア)
思・判・表	☐ 平均の考えを活用して、いろいろな問題の解き方を考え、説明している。	D(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	☐ 平均の意味や求め方を進んで調べるとともに、平均のよさに気づき、生活に用いる場面がないかを友だちと話し合っている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	わり算
5年	比例

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
平均①	1	☐ 平均の用語とその意味や求め方を理解する。	(1)ア, ウ
		・ 5個のオレンジからできるジュースの量を、1個あたりにならした量を求める。	
平均②	1	☐ 平均から全体量を求める方法を理解する。	(1)ア
平均③	1	☐ 資料の中に0がある場合の平均の求め方や、平均では分離量でも小数で表せることを理解する。	(1)ア
		・ 「ますりん通信」で、仮の平均を用いた平均の求め方を知る。	
まとめ①	1	☐ 「いかしてみよう」で、平均を使って、歩幅を求めることができる。また、それを使っていろいろな場所のおよその長さを調べる。	(1)ア
		・ 「ますりん通信」で、外れ値について知り、目的に合った平均の求め方を理解する。	
まとめ②	1	☐ 「たしかめよう」で、平均の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	

2023年度

教科
算数

学年
5

教科書
東書

下28

教科書ページ
～42

配当時数
10

配当月
11

～11

大単元(題材名)	12. 単位量あたりの大きさ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 混み具合を比べることを通して、単位量あたりの考え方がわかる。 ○ 単位量あたりの大きさの用語とその意味がわかる。 ○ いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。 ○ 人口密度の用語とその意味を理解し、人口密度を求めて比べることができる。 ○ 速さは単位量あたりの大きさをを用いると表すことができることがわかる。 ○ 時速、分速、秒速の用語とその意味がわかる。 ○ 速さを求める公式を理解し、道のりと時間を速さを求めることができる。 ○ 道のりを求める公式を理解し、速さと時間から道のりを求めることができる。 ○ 時間を求める公式を理解し、道のりと速さから時間を求めることができる。
思・判・表	○ 人数と面積を使って混み具合を比べるとき、どちらか一方の数値を同じにしたときの、他方の量で比べればよいと考えることができる。 ○ 単位量あたりの大きさを求めて解決する問題の解き方を筋道立てて考えることができる。 ○ 速さを比べる方法を、単位量あたりの大きさの考えを使って考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 単位量あたりの大きさをを用いて、比べるよさに気づき、目的に応じて比べる方法を日常生活に生かそうとする。 ○ 速さは単位量あたりの大きさの考え方にもとづいていることを知り、日常生活で速さが扱われている場面を考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】	対応する学習指導要領の項目	
知・技	○ 単位量あたりの大きさの意味や求め方を理解している。 ○ 人口密度の意味や求め方を理解している。 ○ 混み具合を数値化して比べている。 ○ いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べている。 ○ 人口密度を計算により求め、比べている。 ○ 速さは、単位量あたりの大きさの考え方を使って、比べられることを理解している。 ○ 時速、分速、秒速の用語とその意味を理解している。 ○ 速さ、道のり、時間を求める公式を理解し、それぞれ計算で求めている。	C(2)ア(ア) C(2)ア(ア) C(2)ア(ア) C(2)ア(ア) C(2)ア(ア) C(2)ア(ア) C(2)ア(ア)
思・判・表	○ 混み具合を比べるとき、どちらか一方の数値を同じにして、他方の量で比べればよいと考え、説明している。 ○ 単位量あたりの大きさを求めて解決する問題の解き方を筋道立てて考え、説明している。 ○ 速さを比べる方法を、単位量あたりの大きさの考えを使って考え、説明している。	C(2)イ(ア) C(2)イ(ア) C(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 単位量あたりの考えを用いると、数値化して比較できることよさに気づき、進んで活用している。 ○ 速さは単位量あたりの大きさの考え方にもとづいていることを知り、生活で速さが扱われている場面を考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容	
5	年	平均

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.こみくあい	2	○ ウサギ小屋の混み具合を比べることを通して、単位量あたりの考え方や用い方を理解する。 ・ 混み具合の比べ方について、3人の考え方を比較し、単位量あたりの大きさの意味を理解する。 ・ 混み具合は、1㎡あたりの数で比べるとわかりやすいことを確認する。	(1)ア、ウ
2.いろいろな単位量あたりの大きさ①	1	○ 人口密度の用語とその意味、求め方を理解し、人口の混み具合を比べる。	(1)ア
2.いろいろな単位量あたりの大きさ②	1	○ 単位量あたりの大きさの考え方を適用し、2つの田の米のとれ具合を比べる。	(1)ア
3.速さ①	1	○ 単位量あたりの大きさの考え方を使って、速さの比べ方を考える。	(1)ア、ウ
3.速さ②	1	○ 速さを計算で求める式を理解し、時速、分速、秒速の用語とその意味を理解する。	(1)ア
3.速さ③	1	○ 速さと時間から、進む道のりを求める方法を考える。	(1)ア
3.速さ④	1	○ 速さと道のりから、かかる時間を求める方法を考える。	(1)ア
まとめ①	1	○ 「いきてみよう」で、身の回りから単位量あたりの大きさを使っている場面を探すなどする。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、単位量あたりの大きさの基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。 ○ 「つないでいこう算数の目」で、2つの量の関係に注目した比べ方について説明する。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	より	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	5	東書	下	44	64	11	12

大単元(題材名)	13. 四角形と三角形の面積		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の面積は，既習の図形に等積変形等して求められることがわかる。 ○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の求積公式の意味を理解し，求積公式を使って面積を求めることができる。 ○ 平行四辺形，三角形，台形の底辺，高さ，上底，下底の用語とその意味がわかる。 ○ 高さが図形の内部にとれない平行四辺形や三角形の面積の求め方がわかる。 ○ 三角形の底辺を一定にして高さを変えていくとき，面積は高さに比例していることがわかる。
思・判・表	○ 平行四辺形，三角形，台形及びひし形の面積の求め方を，既習の図形に等積変形等して説明することができる。 ○ 平行四辺形，三角形の面積の求め方を活用して，面積の問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ いろいろな平面図形について，既習の図形の面積の求め方と関連付けて考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の等積変形や倍積変形の意味を理解している。 ○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の求積公式の意味を理解している。 ○ 平行四辺形，三角形，台形の底辺，高さ，上底，下底の用語の意味を理解している。 ○ 平行四辺形，三角形，台形の面積を求積公式を使って求めている。 ○ 三角形の底辺を一定にして高さを変えていくとき，面積は高さに比例していることを理解している。	B(3)ア(ア)，C(1)ア(ア) B(3)ア(ア)，C(1)ア(ア) B(3)ア(ア)，C(1)ア(ア) B(3)ア(ア)，C(1)ア(ア) B(3)ア(ア)，C(1)ア(ア)
思・判・表	○ 平行四辺形，三角形などの面積の求め方を考え，既習の図形に等積変形等して説明している。 ○ 平行四辺形，三角形の面積の求め方を活用して，面積の問題を解決している。	B(3)イ(ア) B(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習の図形の面積の求め方をもとにして，平行四辺形，三角形，台形及びひし形の求め方を考え，その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 垂直，平行と四角形
4	年 面積のはかり方と表し方

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.平行四辺形の面積の求め方①	1	○ 平行四辺形の面積の求め方を考え，長方形に等積変形して求める考え方を説明する。	(1)イ，ウ
1.平行四辺形の面積の求め方②	1	○ 平行四辺形の面積を計算で求める方法を考え，求積公式を理解する。	(1)イ
1.平行四辺形の面積の求め方③	1	○ 高さが図形の内部にとれない平行四辺形の面積の求め方を理解する。	(1)イ，ウ
		・ 底辺の長さと高さが等しければ，どんな形の平行四辺形も面積は等しくなることを確認する。	
2.三角形の面積の求め方①	1	○ 三角形の面積の求め方を考え，平行四辺形や長方形に変形して求める考え方を説明する。	(1)イ，ウ
2.三角形の面積の求め方②	1	○ 三角形の面積を計算で求める方法を考え，求積公式を理解する。	(1)イ
2.三角形の面積の求め方③	1	○ 高さが図形の内部にとれない三角形の面積の求め方を理解する。	(1)イ，ウ
		・ 底辺の長さと高さが等しければ，どんな形の三角形も面積は等しくなることを確認する。	
3.いろいろな四角形の面積の求め方①	1	○ 台形の面積の求め方を考え，平行四辺形や2つの三角形に分けて求める考え方を説明する。	(1)イ，ウ
3.いろいろな四角形の面積の求め方②	1	○ 台形の面積を計算で求める方法を考え，求積公式を理解する。	(1)イ
3.いろいろな四角形の面積の求め方③	1	○ ひし形の面積の求め方を考え，求積公式を理解する。	(1)イ，ウ
		・ ひし形の求積公式を活用して，風形の面積が求められないかを考える。	
4.三角形の高さと面積の関係	1	○ 三角形の底辺が決まっているとき，高さとの面積が比例することを理解する。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で，四角形と三角形の面積の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，形の特徴に注目し面積の求め方等を考える。	

2023

年度

教科

学年

教科書

教科書ページ

配当時数

配当月

算数

5

東書

下 66

～ 82

9

1

～ 1

大単元(題材名)	14. 割合
中単元(曲名)	
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係
関連する道徳の内容項目	

【到達目標】

知・技	○ 割合の用語とその意味がわかる。 ○ パーセント（％），百分率の用語やその意味，表し方がわかる。 ○ 割合，比べられる量，もとにする量の求め方がわかる。 ○ 百分率を求めることができる。 ○ 割合を百分率で表したり，百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。 ○ 歩合の用語とその意味，表し方がわかる。
思・判・表	○ 数量を比較する場合，全体と部分の関係を捉えて比べ方を考えることができる。 ○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係をもとに，比べられる量，もとにする量の求め方を考えることができる。 ○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係をもとに，問題解決の方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 割合を用いた比べ方のよさに気づき，割合がどう利用されているかを考え，それを日常生活に生かそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】	対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 割合の用語とその意味を理解している。 ○ 百分率や歩合の用語やその意味，表し方を理解している。 ○ 割合，比べられる量，もとにする量の求め方を理解している。 ○ 百分率，歩合を求めている。 ○ 割合を百分率で表したり，百分率で表された割合を小数で表したりしている。 C(3)ア(ア)(イ) C(3)ア(ア)(イ) C(3)ア(ア)(イ) C(3)ア(ア)(イ) C(3)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 数量を比較する場合，全体と部分の関係を捉えて比べ方を考え，説明している。 ○ 比べられる量やもとにする量の求め方を，割合を求める式や数直線をもとに考え，説明している。 ○ 割合を利用して問題を解決している。 C(3)イ(ア) C(3)イ(ア) C(3)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係を，進んで図などに表して，問題解決している。 ○ 割合の考え方が生活場面に用いられていることを理解し，身の回りから探している。

【関連する既習内容】

学年	内容
5	年 単位量あたりの大きさ
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.割合①	2	○ 割合の用語とその意味や求め方を知り，割合を小数で求める。 ・ ショートの成功率を比べる方法を考える。 ・ 割合，比べられる量，もとにする量の関係から，割合を求める式を理解する。 ・ 1を超える割合について考える。	(1)ウ
1.割合②	1	○ ％，百分率の用語とその意味を知り，割合を百分率で表す。 ・ 小数や整数で表した割合を百分率で表したり，百分率で表した割合を小数で表したりする。 ・ 割合が1より大きい場合の百分率の表し方についても理解する。 ・ 「ますりん通信」で，歩合の意味と，表し方を知る。	(1)ア
2.百分率の問題①	1	○ もとにする量と割合から，比べられる量を求める方法を考える。 ・ 数直線図をつくって，比べられる量の求める方法を考える。	(1)ア
2.百分率の問題②	1	○ 比べられる量と割合から，もとにする量を求める方法を考える。	(1)ア
3.練習	1	○ 練習に取り組む，学習内容を理解しているかを確認する。	
4.わりびき，わりましの問題	1	○ 比べられる量の割合がもとにする量のどれだけにあたるかを求め，比べられる量を求める。	(1)ア，ウ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，割引に関する買い物の場面の問題を解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で，割合の基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，2つの量の関係を注目し，割合を使った比べ方を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	より教科書ページ	配当時数	配当月		
算数	5	東書	下 84	～ 94	8	1	～ 2

大単元(題材名)	15. 帯グラフと円グラフ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	D データの活用		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 帯グラフと円グラフの意味とそれぞれの特徴や読み方がわかる。
	○ 複数の帯グラフを並べると、割合の変化の様子が比べやすくなることがわかる。
	○ 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表すことができる。
思・判・表	○ 資料を詳しく調べるために、どのようなグラフに表すとよいかを考えることができる。
	○ 棒グラフ、折れ線グラフ、帯グラフの表し方の工夫を捉えて、資料を目的に応じたグラフに表してデータの特徴や傾向を判断できる。
	○ 結論について、多面的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 問題を解決するために資料を収集し適切なグラフを選択して判断し、その結論や問題解決の過程がどうであったか考えようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 帯グラフと円グラフの意味とそれぞれの特徴や読み方を理解している。	D(1)ア(ア)(イ)
	○ 複数の帯グラフを並べると、割合の増減が比べやすくなることを理解している。	D(1)ア(ア)(イ)
	○ 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表している。	D(1)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 資料を詳しく調べるために、どのようなグラフに表すとよいかを考え、その理由を説明している。	D(1)イ(ア)
	○ 目的に応じて、資料を適切なグラフに表してデータの特徴や傾向を判断している。	D(1)イ(ア)
	○ 出した結論について、その理由を説明している。	D(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 帯グラフと円グラフを日常生活の考察に進んで用いようとしている。	
	○ 目的に応じて、進んで資料を集め、分類整理をしている。	
	○ 問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察している。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	ほうグラフと表
4年	折れ線グラフと表
5年	割合

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
帯グラフと円グラフ①	2	○ 割合を表すグラフとして帯グラフと円グラフがあることを知り、読み方や特徴を理解する。	(1)ア
		・ 好きな給食メニューの、帯グラフと円グラフを読む。	
帯グラフと円グラフ②	1	○ 帯グラフと円グラフの書き方を理解する。	(1)ア、ウ
		・ 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表す。	
帯グラフと円グラフ③	1	○ いくつかの帯グラフを縦に並べると、それぞれの割合の増減が比べやすくなることを知る。	(1)ア、ウ
		・ 複数のグラフから、割合などを読み取り、問題を解決する。	
帯グラフと円グラフ④	1	○ 問題→計画→データ→分析→結論 という5つの段階を経て問題解決する方法を理解する。	(1)ア
		・ どんなデータを集める必要があるかを考える。	
		・ 目的に応じて表したグラフは、どんなことがわかりやすくなるか考える。	
まとめ①	2	○ 「いかしてみよう」で、身の回りの事象について、統計的な問題解決の方法を活用して、問題解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で、帯グラフと円グラフの基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、データの特徴に注目し、目的に合ったグラフを選んだ理由を説明する。	

大単元(題材名)	16. 変わり方調べ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算		
関連する道徳の内容項目			

知・技	○ 伴って変わる2つの数量の関係を、表や式で表すことができる。
	○ 伴って変わる2つの数量について表や式に表すと、その対応や変化の特徴がつかみやすくなることがわかる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量を見だし、表や式に表すことでその対応や変化の特徴をみつけることができる。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を、表や式を用いて説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 求めたい数量に関して、それと関係のある数量を使って調べようとする。
	○ 伴って変わる2つの数量の対応や変化の特徴を見だすために、表や式に表そうとする。

【評価規準】

【関連する既習内容】

【學習活動】

[illegible]

2023年度		教科書		教科書ページ		配当時数		配当月	
教科	学年	教科書	下	教科書ページ	100	～	113	9	2
算数	5	東書	下	100	～	113	9	2	2

大単元(題材名)	17. 正多角形と円周の長さ		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 正多角形の用語を知り，その意味がわかる。
	○ 円を用いた正多角形のかき方を考え，円を用いた正六角形の工夫したかき方がわかる。
	○ 正多角形をかくことができる。
	○ 円周や円周率の用語とその意味がわかる。
	○ 円周の長さを求める公式を理解し，直径や半径の長さから円周の長さを求めることができる。
	○ 直径の長さと円周の長さが比例することを理解し，比例関係をもとに円周の長さを求めることができる。
思・判・表	○ 円周の長さを求める式を使って，問題解決をすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 正多角形と円について，それぞれの図形を構成する要素に着目し，図形の性質を見いだそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

【評価規準】		対応する学習指導要領の項目
知・技	☐ 正多角形の用語を知り，その意味を理解している。	B(1)ア(ウ)(エ)，C(1)ア(ア)
	☐ 円を使って，正多角形をかいている。	B(1)ア(ウ)(エ)，C(1)ア(ア)
	☐ 円周や円周率の用語とその意味を理解している。	B(1)ア(ウ)(エ)，C(1)ア(ア)
	☐ 円周の長さを求める公式を理解し，直径や半径の長さから円周の長さを求めている。	B(1)ア(ウ)(エ)，C(1)ア(ア)
	☐ 直径の長さと円周の長さが比例することを理解し，比例関係をもとに円周の長さを求めている。	B(1)ア(ウ)(エ)，C(1)ア(ア)
思・判・表	☐ 円周の長さを求める式を使って，問題を解決している。	B(1)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	☐ 正多角形と円の性質から，円を使って正多角形をかく方法を考えている。	
	☐ 円周の長さを求める式を使って，問題解決の方法を考え，わかりやすく説明する工夫をしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3	年 円と球
5	年 図形の角

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.正多角形①	1	○ 正多角形の用語を知り，その意味を理解する。	(1)イ
1.正多角形②	1	○ 円を用いた正多角形のかき方を考える。 ・ 円の中心のまわりの角を等分して正多角形をかく。	(1)イ
1.正多角形③	1	○ 円のまわりを，円の半径の長さで区切って正六角形がかける理由を説明する。	(1)イ，ウ
2.円のまわりの長さ①	1	○ 円周の用語と意味を知り，正多角形の性質を使って円周の長さは直径の長さの3倍より長く，4倍より短いことを調べる。	(1)イ
2.円のまわりの長さ②	1	○ 実際に円の直径とその円周の長さを測り，円周率の用語と意味を理解する。	(1)イ
2.円のまわりの長さ③	1	○ 直径や半径の長さから円周の長さを求めたり，円周の長さから直径の長さを求めたりする。 ・ 「ますりん通信」で，円周率についての歴史に興味・関心をもつ。	(1)イ
2.円のまわりの長さ④	1	○ 直径の長さと円周の長さが比例することを理解し，比例関係をもとに円周の長さを求める。	(1)イ
まとめ①	1	○ 「いかしてみよう」で，円と円周について学習内容を活用して問題解決する。	(1)ア
まとめ②	1	○ 「たしかめよう」で，正多角形と円周の長さの基本的な学習内容を理解しているかを確認し，それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で，正多角形の性質に注目し，円の性質を考える。	

2023	年度						
教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月	
算数	5	東書	下	114	7	3	3

大単元(題材名)	18. 角柱と円柱		
中単元(曲名)			
主領域／領域／内容の区分	B 図形		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	○ 角柱、円柱の定義やその特徴がわかる。
	○ 角柱、円柱の底面、側面、高さの用語とそれらの意味がわかる。
	○ 三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の側面、頂点、辺の数を調べ、数のきまりがわかる。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図の見方がわかる。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図のかき方を理解して、それらをかくことができる。
思・判・表	○ 角柱や円柱の辺や面のつながりや位置関係に着目して、見取図や展開図のかき方を考えることができる。
	○ 角柱の底面は三角形、四角形などがあり、側面はすべて長方形か正方形であることに着目し、角柱の名前を見いだすことができる。
	○ 角柱について、側面、頂点、辺の数をそれぞれ調べ、それらの関係についてまとめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 角柱と円柱について、それぞれの図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見いだそうとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 角柱、円柱の定義やその特徴を理解している。	B(2)ア(ア)
	○ 角柱、円柱の底面、側面、高さの用語とそれらの意味を理解している。	B(2)ア(ア)
	○ 角柱の側面、頂点、辺の数を調べ、数のきまりを理解している。	B(2)ア(ア)
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図を読んだり、かいたりしている。	B(2)ア(ア)
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図をかく、辺や面のつながりや位置関係を調べている。	B(2)ア(ア)
思・判・表	○ 角柱の底面や側面の形に着目し、角柱の名前がわかり、その説明をしている。	B(2)イ(ア)
	○ 角柱について、側面、頂点、辺の数をそれぞれ調べ、それらの関係についてまとめている。	B(2)イ(ア)
主体的に学習に取り組む態度	○ 角柱や円柱の構成要素に着目して、角柱や円柱の特徴を進んで調べている。	
	○ 角柱や円柱の展開図をかき、それを組み立てて、角柱や円柱の性質を調べている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4	年 直方体と立方体
	年

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	数学的活動
1.角柱と円柱①	1	○ 立体を側面の観点でグループ分けし、その分け方について説明する。	(1)イ、ウ
		・ 立体の特徴を調べ、角柱、底面、側面、三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の用語とその意味を理解する。	
1.角柱と円柱②	1	○ 三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の側面、頂点、辺の数を調べ、数のきまりをみつける。	(1)イ
		・ 三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の側面、頂点、辺の数を表にまとめる。	
1.角柱と円柱③	1	○ 円柱の底面や側面の形を調べ、円柱の意味や性質を理解する。	(1)イ
1.角柱と円柱④	1	○ 身の回りから角柱、円柱をみつける。また、方眼を使って、三角柱、円柱の見取図をかく。	(1)ア
2.角柱と円柱の展開図①	1	○ 工作用紙を使って、三角柱の展開図をかく、三角柱を組み立てる。	(1)イ
2.角柱と円柱の展開図②	1	○ 工作用紙を使って、円柱の展開図をかく、円柱を組み立てる。	(1)イ
まとめ	1	○ 「たしかめよう」で、角柱と円柱の基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。	
		○ 「つないでいこう算数の目」で、面どうしの関係に注目し、どんな図形なのかを調べる。	